

# 小松島市の野鳥生息状況

鳥類班 (日本野鳥の会徳島県支部)

東條 秀徳\* 岡田 隆子 鹿草 誠 庄野 孝 西川 清  
萬宮千鶴子 三ツ井政夫 宮本 勇 山下 拓美 吉見 幹子

**要旨**：小松島市は、四国の東端に位置し、紀伊水道および小松島湾に面する面積約45km<sup>2</sup>、南北・東西各約10kmの自治体である。2020年9月～2022年8月の2年間、小松島市全域で野鳥の生息調査を実施し、ヒシクイ、ナベヅル、シベリアオオハシシギ、アオバズクなど、国または県のレッドリスト種62種を含む185種の野鳥と5種の外来種・野生化種を確認した。185種の内95種が水辺環境を主な生息環境とする種で、その内35種がシギ・チドリ類であった。

**キーワード**：小松島市、農耕地、シギ・チドリ、ナベヅル、タカの渡り

## 1. はじめに

小松島市は、四国の東端に位置し、紀伊水道および小松島湾に面する面積約45km<sup>2</sup>、南北・東西各約10kmの自治体である。最高地点標高314.3m。山地面積は約6.5km<sup>2</sup>で、田浦町、田野町、立江町、櫛渕町に跨がる西部山地、日峰、芝山とも呼ばれる北部山地、阿南市境の南部山地および勝浦町境の西部台地で構成される。主要植生は広葉樹林（約3.4km<sup>2</sup>）と竹林（約2.5km<sup>2</sup>）である（徳島県2021）。平野部の微高地や山裾に大木が残る社寺林が散在する。海岸は一部を除きコンクリート製護岸が築かれ、離岸堤および突堤も構築されている。横須と和田の鼻には海浜植物が生える砂浜も見られる。河川は勝浦川が市北部を西から北へ流れ、その他勝浦川と那賀川の旧河道とされる多数の小河川が小松島湾に流れ込んでいる。田野町と櫛渕町の山間部の15カ所に溜池が散在する。農耕地は約12km<sup>2</sup>。多くは区画整備された稻作一毛田である。山間部と海岸部では耕作放棄田が発生している。集落は、海岸沿い、山裾および主要道沿いに形成されている。勝浦川橋下流の勝浦川とその北岸の市域が大神子鳥獣保護区（850ha）の

一部であり、「恩山寺」（3ha）と、「小松島」（1820ha：概ねJR牟岐線の東側で小松島湾を囲む陸上と小松島湾、平成橋下流の立江川）の2地域が特定獣具使用禁止区域（1820ha）となっている。環境改変工事としては、市を南北に横断する徳島南部自動車道の建設工事と勝浦川の河道確保工事が進行中であり、坂野町の農地に農地防災事業の調整池が完成した。

## 2. 調査期間および方法

2020年9月～2022年8月の2年間。観察範囲は小松島市陸上全域と海岸から視認できる海上。観察者は小松島市在住者3人を含む県内在住者計10人。双眼鏡や望遠鏡による目視および特徴的な鳴き声により確認した種名と個体数を記録するとともに、写真記録にも努めた。また、小松島市の環境から、自然度の高い環境として山地森林4カ所と水辺環境3カ所、人の生活に近い環境として集落・農耕地3カ所および神社3社に調査区域を設定し、毎月1回、1年間定期観察を実施した。さらに、野鳥との捕食関係、植生等生息環境への関与が考慮されることから、観察時に遭遇した野生哺乳類についても記録し

\* 〒770-8025 徳島市三軒屋町外24-77 088-669-3750

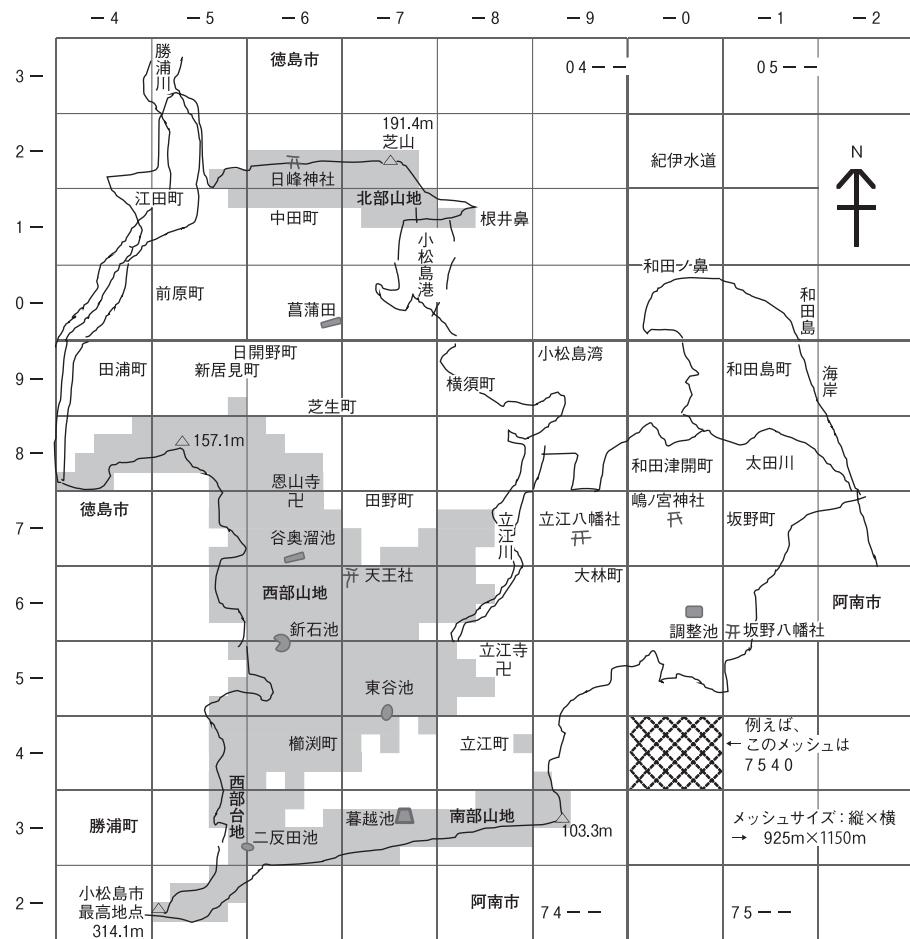


図1 小松島市調査用メッシュ地図概要

た。観察地については、正確な地名の把握が困難な地点もあることから、従来より都道府県メッシュマップ（環境庁自然保護局1997）の3次メッシュコードを併記している（図1）。

### 3. 結果および考察

## 1) 山地森林の記録

### (1)定期観察記録 (表1)

山地・森林環境として市内各山地から次の地域を選定し周年観察した。概ね月1回、1年間観察し、確認した種と個体数を記録した。

①北部山地（芝山）：標高約50～191.4m

遠見ヶ原から灯台までの徳島市境ともなる尾根の遊歩道約1kmを調査定線とした(メッシュ0427)。前半の高標高域はヤマモモやウバメガシなど常緑広葉樹が優勢で、中盤からはコナラやヤマザクラなど落葉広葉樹が優勢な植生である。32種の野鳥と特定外来種ソウシチョウを確認した。山頂上空にアマツ

バメの群れが出現することもありその中にヒメアマツバメの姿もあった。

②西部山地（立江公園）：標高約5~120.9m

清水谷を囲む尾根に設けられた新四国参拝路約2 kmを調査定線とした（メッシュ7457・7458）。管理放棄された面積が優勢な竹林と高標高部の広葉樹林が主要な植生である。クヌギやコナラなどの高木でナラ枯れが拡大している。今回の調査ではこの付近でのみ観察されたアカショウビンを含む36種を確認した。

③南部山地 (萱原)：標高約50～約120m

管理放棄された果樹園から遷移した落葉広葉樹林が主要植生の山林内の林道約1kmを調査定線とした(メッシュ7436)。28種の野鳥と外来種のコジュケイを確認した。

④西部台地（二反田）：標高約30～約100m。

勝浦町境の台地の果樹園地帯の農道約1.5kmを調査定線とした(メッシュ7445)。主要植生はヤマモ

モ、柑橘類の果樹園とその防風林、急斜面と管理放棄地の広葉樹林である。勝浦盆地と小松島平野の境界の鞍部となっており、カワウ、アオサギなど上空を通過する水辺の野鳥5種を含む40種とコジュケイ

表1 山地森林の定期観察記録の比較

種名	芝山	立江公園	萱原	二反田
1 キジバト	○	○	○	○
2 アオバト	○	○		○
3 カワウ		○		○
4 アオサギ			○	○
5 ホトトギス	○	○	○	○
6 アマツバメ	○			○
7 ヒメアマツバメ	○			
8 ミサゴ			○	○
9 トビ	○	○	○	○
10 ハイタカ				○
11 サシバ	○	○	○	○
12 ノスリ		○		○
13 フクロウ		○		○
14 アカショウビン		○		
15 コゲラ	○	○	○	○
16 アオゲラ			○	
17 チョウウゲンボウ			○	
18 サンショウクイ		○	○	
19 サンコウチョウ		○		○
20 モズ	○	○		○
21 ハシボソガラス	○	○	○	○
22 ハシブトガラス	○	○	○	○
23 ヤマガラ	○	○	○	○
24 シジュウカラ	○	○	○	○
25 ツバメ	○	○	○	○
26 ヒヨドリ	○	○	○	○
27 ウグイス	○	○	○	○
28 ヤブサメ		○		○
29 エナガ	○	○	○	○
30 メボソムシクイ	○			
31 メジロ	○	○	○	○
32 トラツグミ		○		
33 クロツグミ	○			
34 シロハラ	○	○	○	○
35 アカハラ	○	○		
36 ツグミ	○	○	○	○
37 コルリ		○		
38 ルリビタキ			○	
39 ジョウビタキ	○	○	○	○
40 エゾビタキ	○			
41 コサメビタキ	○			
42 キビタキ	○	○	○	○
43 オオルリ		○		
44 スズメ	○			○
45 キセキレイ				○
46 ハクセキレイ				○
47 ビンズイ				○
48 アトリ		○		○
49 カワラヒワ	○	○	○	○
50 マヒワ				○
51 シメ				○
52 イカル	○	○	○	
53 ホオジロ	○	○	○	○
54 カシラダカ				○
55 アオジ	○	○	○	○
コジュケイ			○	○
ソウシショウ	○			
野鳥種数	32	36	28	40

を確認した。

4地域の調査で合計55種を確認した。4地域に共通した種は21種で、そのうち13種が留鳥4種が冬鳥、3種が夏鳥、1種が旅鳥であった。

## (2)その他特記事項

定期調査以外にも隨時観察した山地森林環境での特記事項として次の3件を記載する。

### ①竹林のキビタキ（写真1）

小松島市の竹林面積は、広さでは、県内自治体中上位から4番目だが、森林面積に占める比率では、2位の阿南市（13.5%）を大きく上回る37.8%である（徳島県2021）。夏鳥のキビタキは、4月上旬から訪れ、梅雨7月初旬まで、市内全域の河畔や山地の竹林各地でさえずりが聞こえた。さらに枯れ折れた竹の節上での営巣や、竹林内での給餌も確認した。前述したとおり、竹林は小松島市の主要植生であり、キビタキは小松島市を代表する夏鳥といえるであろう。



写真1 竹の枝に停まるキビタキ雄

### ②フクロウ類

おもに早朝・夜間の観察で北部山地、西部山地、南部山地、西部台地の多数地点でフクロウの鳴き声を確認した。南部山地では親子ペアも観察した。南部山地におけるフクロウの生息は阿南市調査でも言及した（東條2015）。森林生態系の上位種であるフクロウの広範囲生息は、小松島市の森林生態系の豊かさを示唆するものである。

アオバズクとオオコノハズクは、ともに徳島県レッドリスト種の小型フクロウ類だが、前者は北部山地と西部山地の計3地点で、後者は西部山地の2地点で生息を確認した。

### ③タカの渡り

春秋に、徳島県上空を幅広くタカが渡っていることが明らかにされており（日本野鳥の会徳島県支部2003），各地の阿波学会調査においても再確認している（東條2015，東條2017，東條2021）。今回調査でも、北部山地（日峯および日峰神社）と西部台地（二反田）および西部山地南部（植松）などで隨時観察した。徳島県のタカ渡りの主役のサシバ（写真2）を、秋春ともに（2021. 9. 28, 日峯, 250羽。2022. 4. 8, 二反田, 61羽など），ハイタカでは、秋に（日峰神社, 2021. 10. 24, 11羽。2021. 10. 30, 24羽）比較的多数の渡りを確認した。さらに、徳島県内の渡りで比較的観察機会の多いハチクマ、ツミ（写真3），オオタカ、ノスリ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウも、少數ながらそれぞれ複数回確認した。



写真2 帆翔するサシバの群れ（タカ柱）



写真3 ツミ

## 2) 水辺環境の記録

### （1）定期観察記録（表2）

水辺環境の定期観察は、次の3河川で実施した。

#### ①勝浦川

定期観察は、江田潜水橋と野上潜水橋を通る周回路（メッシュ0425）で実施し、河川域内とその上空を観察した。川幅200～300mの河川内は、竹林

主体の河畔林やクズや高茎草本の草地、ツルヨシやヨシの群落、礫地および水路と多様な環境となっており、調査区域の中程に汐留堰がある。調査期間中に河畔林の伐採、中州のツルヨシなど植生と堆積土砂の除去工事が実施された。また鮎の遡上時期と產

表2 河川の定期観察記録の比較

	種名	勝浦川	立江川	菖蒲田
1	キジ	○		
2	オカヨシガモ	○		
3	ヒドリガモ		○	○
4	マガモ		○	○
5	マルガモ		○	
6	カルガモ	○	○	○
7	オナガガモ			○
8	コガモ	○	○	○
9	カツブリ	○	○	○
10	キジバト	○	○	○
11	カワウ	○	○	○
12	ゴイサギ	○	○	○
13	アオサギ	○	○	○
14	ダイサギ	○	○	○
15	コサギ	○		○
16	ヒクイナ	○	○	
17	バン		○	○
18	オオバン	○	○	○
19	イカルチドリ	○		
20	インシギ	○	○	○
21	ミサゴ	○	○	○
22	トビ	○	○	○
23	ノスリ	○	○	
24	カワセミ	○	○	○
25	アリスイ	○		
26	コゲラ	○		
27	ハヤブサ	○		
28	モズ	○	○	
29	ハシボソガラス	○	○	
30	ハシブトガラス	○	○	
31	ツバメ	○	○	○
32	ヒヨドリ	○	○	○
33	ウグイス	○	○	
34	メジロ	○		
35	オオヨシキリ	○	○	○
36	セッカ	○		○
37	ムクドリ	○		○
38	シロハラ	○		
39	ツグミ	○	○	○
40	ジョウビタキ	○	○	○
41	ノビタキ	○		
42	イソヒヨドリ	○	○	○
43	コサメビタキ	○		
44	スズメ	○	○	○
45	ハクセキレイ	○	○	○
46	セグロセキレイ	○	○	○
47	アトリ	○		
48	カワラヒワ	○	○	○
49	イカル	○		
50	ホオジロ	○	○	○
51	ホオアカ			○
52	アオジ	○	○	
53	オオジュリン	○		
	コジュケイ	○		
	ドバト	○	○	○
	野鳥種数	47	35	32

卵時期には、漁協により、河道域への立ち入りが制限された。1年間の観察で47種の野鳥と2種の外来種を確認した。野鳥47種の内27種がキジ（写真4）やノスリ（写真5）など山野環境を主要な生息環境とする種であった。水辺環境の野鳥では、主に中流域の川原に生息するイカルチドリ（写真6）を汐留堰下流の中州石原でも確認した。一方、鳥獣保護区内の河川域ながら、観察範囲でのカモ類の確認種は3種と少なく個体数も少數であった。



写真4 キジ 採餌する雌2羽と警戒する雄(右後)

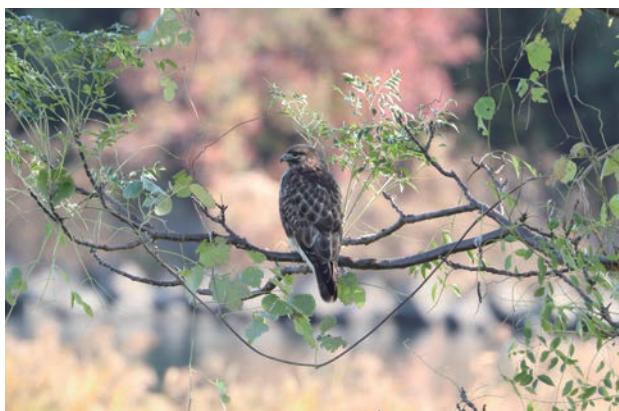


写真5 河畔林の枝に停まるノスリ



写真6 汐留堰の上のイカルチドリ

## ②立江川

両岸石積みなどの護岸改修工事が行われてから約20年が経過した河川域である（メッシュ7468）。岸斜面には高茎草本が成育し、広葉樹の若木も分散して発育している。南岸水際にはヨシ群落が伸びている。定期観察は小田橋と平成橋を通る周回路で、概ね月1回、1年間実施し、上空を含む河川域内を観察範囲とした。その結果、35種の野鳥と外来種のドバトを確認した。35種中20種が水辺環境の種であった。銃猟禁止区域であり、狩猟期間を含む冬季に100～300羽のカルガモなどカモ類5種を確認した。

### ③菖蒲田

神田瀬川中流の遊水地で、護岸改修工事後約30年が経過した水域である。中央を国道橋が横断している。下流部に石積みもあるが、コンクリート製護岸がほとんどである。止水状態で、ガマが生育し、夏にはホテイアオイやヒシが水面を覆う。周囲には大型商業施設、水田、畑、耕作放棄地などが接している。定期観察は、国道橋の上流と下流で、概ね月1回20分、1年間、周辺を含め観察した。その結果、32種の野鳥と外来種のドバトを確認した。32種中20種が水辺環境の種であった。また、水辺環境の種の内、カツブリ、ゴイサギ、ハクセキレイおよびセグロセキレイの幼鳥を確認した。

定期観察した3地域の観察で53種の野鳥と外来種2種を確認した。53種の内28種と過半が森林・草原を主要な生息環境とする種であった。水辺環境ながらの結果は、47種と最多種数を確認した勝浦川で、河畔林や草地が豊富で、その結果、27種が山野環境の種であったことによる。

## (2)溜池

西部山地の東部に2カ所、南面に10カ所。南部山地に2カ所、農業用溜池が分布している。カツブリ（写真7）、カモ類、サギ類、ミサゴなどの水辺環境の生息種を確認した。いずれの溜池も狩猟規制は無いが、暮越池以外では狩猟の痕跡は認めなかった。暮越池では、獵の解禁前は数十羽のカモ類が休んでいたが、解禁後にはカモ類の姿は見ないか少數で、池の畔には蘆葦が散在していた。二反田池（メッシュ7446）ではオシドリ（写真8）を襲うハヤブサを見かけた。坂野町に新しく造成された調整池



写真7 池で泳ぐカイツブリ親子



写真8 池で泳ぐオシドリ雄

(メッシュ 7560) では、初年度はカモ類の利用は無かったが、2年目の2021～2022年の冬季の多数時には500羽超のマガモや200羽超のカルガモが休んでいた。西部山地東部の2つの池ではカイツブリの繁殖を確認した。

### (3) 海岸・沿岸

小松島湾および和田島海岸でも随時観察した。水辺環境に生息する種に限っても、カモ科15種、カイツブリ科2種、チドリ科4種、シギ科10種、ウ科3種、サギ科4種、カモメ科5種、セキレイ科3種、とカツオドリ、ミサゴ、イソヒヨドリの50種を確認した。阿波学会における徳島県東部海岸沿い自治体の野鳥調査は、徳島市を除く市町で実施済みだが、今回記録したシギ・チドリ14種は、海岸の記録では、阿波学会調査の最多種記録である（写真9、10）。また、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、スズガモ、カンムリカイツブリは、多数時には小松島湾に200羽超が浮かんでいた。ユリカモメ（写真11）とウミネコも、多数時には、和田島海岸の離岸堤上に、前者で約300羽、後者で約150羽を



写真9 砂浜上のシロチドリ



写真10 離岸堤上で採餌中の夏羽のハマシギ



写真11 ユリカモメの群れ



写真12 海面に浮かぶクロガモのペア

計数した。なお、徳島県では渡来数が少ないクロガモ（写真12）が2021年2～3月に小松島湾で越冬

した。また、本来冬鳥であるオカヨシガモ、スズガモおよびホシハジロを夏季に確認した。

#### (4)小水路

小松島市では、山間地から平地までコンクリート3面張りの小水路が張り巡らされている。土砂の堆積や植生もあり、この環境にも、サギ類、クイナ、ヒクイナ、イソシギ、カワガラス、カワセミ、セキレイ類など水辺の野鳥の生息を認めた。

#### (5)その他特記事項

①立江川と石見川の合流部（メッシュ7478）に形成された延長約50mの中州ヨシ原が、2021年と2022年連続でツバメの<sup>ねぐら</sup>壠として利用されていた。集合するツバメの数は、壠立ち時の観察で、最多約900羽であった。

②豊浦町の製紙工場内の水路沿いの樹林（メッシュ7489）に、カワウの集団営巣地が形成されていた。対岸からの観察で約20巣を確認した。また周辺の架線などとともに集団壠にもなっていた。壠入り時の観察では、100羽超の規模と推測された。

③和田津川河畔林にサギ類の集団壠が形成されていた。2022年8月下旬に実施した日の出前の観察では、100羽超のシラサギ類と10羽前後のアオサギとゴイサギを確認した。

### 3) 集落・農耕地

#### (1)定期観察記録（表3）

##### ①旧小松島線

合同庁舎横から西方の中田駅まで連続する旧国鉄道を改変した延長約1.9kmの歩道・自転車道を調査定線とした（メッシュ0406）。東部周辺には公園、病院、商業施設、工場などと住宅が混在、西部に移行するにつれ農耕地が混在するようになる。歩車道に沿って花木が植栽されている。1年間の観察で23種とドバトを確認した。他2地区に比べ明らかに確認種数が少ないのは、植栽など整備された公園道ながら、径路の多くが密集した市街部域に位置することによるものと思われる。また、スズメとムクドリが多数観察されたが、これも同じ理由によるものであろう。

##### ②田野

大規模に区画整理された農地のほぼ中央を南北に走る農道約1kmを調査定線とした（メッシュ

表3 集落・農耕地の定期観察記録の比較

種名	旧小松島線	田野	和田島
1 マガモ		○	
2 カルガモ	○	○	○
3 キジバト	○	○	○
4 カワウ	○	○	○
5 ゴイサギ	○		
6 アマサギ		○	
7 アオサギ	○	○	○
8 ダイサギ	○	○	○
9 チュウサギ		○	○
10 コサギ	○		○
11 ヒクイナ			○
12 オオバン		○	
13 ホトトギス		○	
14 コチドリ			○
15 イソシギ		○	
16 ミサゴ		○	
17 トビ	○	○	○
18 ハイタカ		○	
19 アリスイ			○
20 チョウゲンボウ		○	○
21 サンショウクイ			○
22 モズ	○	○	○
23 ハシボソガラス	○	○	○
24 ハシブトガラス	○	○	○
25 ヒバリ		○	
26 ツバメ	○	○	○
27 ヒヨドリ	○	○	○
28 ウグイス		○	○
29 メボソムシクイ			○
30 メジロ	○		○
31 セッカ		○	○
32 ムクドリ	○	○	○
33 シロハラ	○		○
34 ツグミ	○	○	○
35 ジョウビタキ	○	○	○
36 イソヒヨドリ	○	○	○
37 スズメ	○	○	○
38 キセキレイ		○	
39 ハクセキレイ	○	○	○
40 セグロセキレイ	○	○	
41 タヒバリ		○	
42 アトリ		○	○
43 カワラヒワ	○	○	○
44 イカル			○
45 ホオジロ			○
46 ホオアカ		○	
47 アオジ		○	○
ドバト	○	○	○
野鳥種数	23	36	34

7487）。周辺はほとんどが稻作一毛田で、多くの田は5月上旬に田植えが、8月下旬から9月上旬に稻刈りが行われる。給水はパイプラインで行われ、水路は排水専用となっている。稻刈り後は複数回耕起されるが、冬季は畔とともに丈低い草原となる。定線沿いの送電鉄塔にカラスの誘巣枠が設けられており半数以上の枠では巣材が存在した。1年間の観察で36種とドバトを観察した。冬季には、ムクドリ、ヒバリ、セキレイ類、カワラヒワなどの留鳥に加え、

ツグミ、タヒバリ、アトリ、ホオアカ、アオジなどの冬鳥が加わる。

#### ③和田島

春日神社から北に延びる浜堤上の車道1kmを調査定線とした（メッシュ7591）。車道沿いは民家や畠、墓地、樹林、草原などが散在し、東西両側の低地は水田である。1年間の観察で34種の野鳥とドバトを確認した。34種の内、24種が林野環境を主な生息地とする種で、10種が水辺環境の種であった。他2地区と比べ、林野環境種の比率が高い結果は、観察範囲に樹林・草原環境が多かったことによるものであろう。3地域合計では、47種を確認し、29種が林野環境の種で、18種が水辺環境の種であった。

#### ④神社の森の記録

各地の歴史ある神社の森（鎮守の森）は、地域集落の象徴である。小松島市南部の平野には、比較的大きい神社の森が散在する。島状に位置する3社の社で、1年間毎月1回20分境内に滞在し定期観察した。坂野八幡神社（メッシュ7551）は、ホルトノキ、イヌマキ、イスノキなどの大木が生育するが、枯木倒木も発生している。立江八幡神社（メッシュ7468）はクスノキ大木の樹冠に覆われてい

表4 神社の定期観察記録の比較

種名	坂野八幡	立江八幡	嶋の宮
1 キジバト	○	○	○
2 ホトトギス			○
3 トビ	○	○	○
4 オオタカ	○		
5 コゲラ	○	○	
6 モズ	○	○	○
7 ハシボソガラス	○	○	○
8 ハシブトガラス	○	○	○
9 ヤマガラ		○	
10 ツバメ	○	○	○
11 ヒヨドリ	○	○	○
12 ウグイス			○
13 メジロ	○	○	○
14 ムクドリ	○	○	○
15 コムクドリ			○
16 シロハラ		○	○
17 ツグミ	○	○	○
18 ジョウビタキ	○	○	○
19 イソヒヨドリ	○	○	
20 エゾビタキ	○		
21 コサメビタキ			○
22 キビタキ		○	
23 スズメ	○	○	○
24 キセキレイ	○		
25 ハクセキレイ	○	○	
26 カワラヒワ	○	○	○
ドバト	○		
野鳥種数	19	19	18

る。嶋の宮神社（メッシュ570）はそれほどの大木はないが、クスノキ、ムクノキ、エノキ、イチョウほか多様な樹種が生育している。各社の確認種数は18～19種と近似していた。共通した種は13種で冬鳥のツグミ、ジョウビタキ以外は留鳥である。3社合計で26種を確認したが、水辺の種は、周囲の水田から飛来したセキレイ類2種だけであった。渡り途中に休憩地として立ち寄ったと思われるホトトギス、コムクドリ、エゾビタキ、コサメビタキを確認した。3社すべてで、トビおよびカラス類の古巣を確認し、坂野八幡神社ではハシボソガラスの営巣を確認した。

#### (2)その他特記事項

##### ①採餌環境

小松島市に広がる農耕地は、一年を通じ、多種の野鳥の採餌場であった。田植え前後の浅い水面が広がる水田には夏鳥のアマサギやチュウサギの群れ、旅鳥のシギ・チドリ類が訪れる（写真13）。梅雨前後からは稲叢の上空を多数のツバメが飛び交う。稲穂が垂れ始めるとスズメやキジバトが群れとなって集まり出す。稲刈り跡の乾田にはサギ類が、雨水などが溜まった水田には南下途中のシギ・チドリ類の姿が見られる（写真14）。今回調査で、水田で確認したシギ・チドリ類は28種と多種であった。晩秋から初冬には2番穂の残る田にナベヅル（写真15）の群れが渡来し、徳島では希なヒシクイ（写真16）の群れも餌場としていた。冬季の耕起された田や草丈低い乾田には、カルガモやヒドリガモ、キジバトやドバト、ハシボソガラス、ツグミやムクドリ、セキレイ類、さらに数百羽のアトリ（写真17）やカワラ



写真13 水田で餌を探すホウロクシギ



写真14 サルハマシギ2羽とシベリアオオハシシギ



写真18 鉄塔上で待機するハヤブサ



写真15 田で採餌するナベヅルの集団



写真16 耕起された田で採餌するヒシクイの群れ



写真17 田の上を飛ぶアトリの大群

ヒワの群れが飛来した。また、これらの小鳥を狙うオオタカ、ハイタカ、ハヤブサ（写真18）、チョウゲンボウなどの猛禽類も生息する。

## ②ツバメとイワツバメの営巣

ツバメは3月中旬から渡来する夏鳥で、民家や商店の軒下などに巣を作る人の生活に近い野鳥であるが、最近はその営巣を見ることは少ない。小松島市でも、二条通りと立江寺付近で、延長約500mの街路を2夏観察したが、現役の巣は、前者で2カ所、後者で1カ所確認できただけであった。なお、両地点とも2年連続で営巣していた。その他、数は少ないが市内各地の商店や公共施設での営巣を確認した。その多くも2年連続であった。

イワツバメは一般に夏鳥だが、徳島県内ではコンクリート製橋桁に営巣し一部は越冬する個体も見られる。小松島市での営巣はこれまで未確認であったが、2021年に勝浦川に架かる野上橋で（写真19）、2022年には工事中の徳島南部自動車道の跨道橋で、集団営巣を確認した。



写真19 橋桁で巣作り中のイワツバメ

#### 4. 今回の調査で確認した鳥獣一覧

今回の調査で、文末に記載した野鳥185種と外来種・野生化種5種および野生哺乳類16種を確認した。このうちRを付記した62種は、環境省または徳島県のレッドリスト種である。野鳥185種を生息環境で分類すると、森林・草原を主要な生息環境とする種が90種、水面や水辺を主要な生息環境とする種が95種であった。生息季節分類では、留鳥が48種、夏鳥が17種、冬鳥が50種、旅鳥・漂鳥が70種である。また野鳥185種の記録は、阿波学会調査においては、阿南市（240種）および鳴門市（193種）に次ぐ多数記録である。

哺乳類16種のうち、キツネ（写真20）は勝浦川と和田島海岸で確認した。勝浦川河川敷と周辺の休耕田は、今回調査においてキジの記録が集中していた地域である。キジはキツネの捕食対象でもあり、これから生息状況に留意する必要がある。生息痕を含め観察記録が多数であったのは、徳島県の第二種特定鳥獣管理対象獣（徳島県2022）であるイノシシとシカの2種だが、北部山地では未確認である。

なお、各種の詳細な記録は、別添CDに掲載した。



写真20 勝浦川の川原に現れたキツネ

#### 5. 終わりに

2年間の観察で、185種の野鳥を確認し、その内の70種（38%）が旅鳥であった。「港町小松島」を象徴する数字とも言える。代表的旅鳥である多種のシギ・チドリ類が和田島町と坂野町に広がる水田に

渡来していた。この地域は現在も環境配慮型の農業が実施されているが、さらに進めて、休耕田などに周年湛水する「夏水田んぼ・冬水田んぼ」の造成を提案する。これにより春秋のシギ・チドリ類に加え、ナベヅルの安定的越冬地の創出が期待され、環境配慮型農業の「見える化」に資するであろう。なお、参考事例と言える観察が2件ある。一つは、和田島の農地に2022年夏に出現した水が溜まった休耕田（面積約1000m<sup>2</sup>）である。8月中旬から多種のシギ・チドリ類が訪れ、早朝に散歩する人たちの興味を惹いていた。もう一つは坂野町に新設された調整池で、冬季多数のカモ類が羽を休め、初夏には家族と思われるコチドリの群れが生息していた。

小松島市上空を多種のタカが渡っているが、高空を飛ぶタカを観察する適地は少なかった。日峯公園の各所に設置された展望所は、成長した樹木に眺望を遮られていた。過去に多数のタカ渡り記録がある恩山寺展望台は閉鎖され入山禁止であった。これらの既存の展望所・展望台の再整備を行い、小松島観光の眺望を復活するとともに、タカ渡り観察という魅力を付加していただきたい。

#### 参考文献

- 環境庁自然保護局計画課自然環境調査室（1997）：都道府県別 メッシュマップ36徳島県、自然環境センター
- 講談社（2021）：講談社の動く図鑑 MOVE動物新訂版
- 東條秀徳（2015）：阿南市の野鳥生息状況。阿波学会紀要60. 39-52
- 東條秀徳（2017）：鳴門市の野鳥生息状況。阿波学会紀要61. 37-48
- 東條秀徳（2021）：海陽町の野鳥。阿波学会紀要62. 37-48
- 徳島県（2021）：令和元年徳島県統計書
- 徳島県（2021）：令和3年度徳島県鳥獣保護区等位置図
- 徳島県（2022）：第13次徳島県鳥獣保護管理事業計画
- 徳島県県民環境部環境総局自然環境課（2011）：徳島県レッドリスト（改訂版）1. 鳥類。徳島県ホームページ [http://www.pre/kftokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red\\_date.html](http://www.pre/kftokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html)
- 日本鳥学会目録編集委員会（2012）：日本鳥類目録改訂第7版。日本鳥学会
- 日本野鳥の会徳島県支部（2003）：徳島のタカの渡り。日本野鳥の会徳島県支部
- 増谷正幸（1991）：松茂町の鳥類。郷土研究発表会紀要37. 53-76

## 小松島市の阿波学会調査で確認した野生鳥獣等一覧 (2020年9月～2022年8月)

※備考：番号の左にRを付した種は、環境省および／または徳島県のレッドリスト種

◎	キジ目	<b>GALLIFORMES</b>
○	キジ科	Phasianidae
1	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>
◎	カモ目	<b>ANSERIFORMES</b>
○	カモ科	Anatidae
R 2	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>
R 3	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>
4	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>
5	ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>
6	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>
7	アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>
8	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>
9	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>
10	ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>
11	オナガガモ	<i>Anas acuta</i>
R 12	トモエガモ	<i>Anas formosa</i>
13	コガモ	<i>Anas crecca</i>
14	ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>
15	キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>
16	スズガモ	<i>Aythya marila</i>
R 17	クロガモ	<i>Melanitta americana</i>
R 18	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>
◎	カイツブリ目	<b>PODICIPEDIFORMES</b>
○	カイツブリ科	Podicipedidae
19	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>
R 20	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>
21	ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>
◎	ハト目	<b>COLUMBIIFORMES</b>
○	ハト科	Columbidae
22	シラコバト	<i>Streptopelia decaocto</i>
23	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>
24	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>
◎	カツオドリ目	<b>SULIFORMES</b>
○	カツオドリ科	Sulidae
25	カツオドリ	<i>Sula leucogaster</i>
○	ウ科	Phalacrocoracidae
R 26	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>
27	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>
28	ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>
◎	ペリカン目	<b>PELECANIFORMES</b>
○	サギ科	Ardeidae
R 29	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>
R 30	ミヅゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>
31	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>
R 32	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>
R 33	アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>
34	アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>
35	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>
36	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>
R 37	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>
38	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>
39	クロサギ	<i>Egretta sacra</i>
◎	ツル目	<b>GRUIFORMES</b>
○	ツル科	Gruidae
R 40	ナベヅル	<i>Grus monacha</i>
○	クイナ科	Rallidae
R 41	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>
R 42	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>
43	バン	<i>Gallinula chloropus</i>
44	オオバン	<i>Fulica atra</i>
◎	カツコウ目	<b>CUCULIFORMES</b>
○	カツコウ科	Cuculidae
R 45	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>
46	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>
47	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>
48	カツコウ	<i>Cuculus canorus</i>
◎	ヨタカ目	<b>CAPRIMULGIFORMES</b>
○	ヨタカ科	Caprimulgidae
R 49	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>
◎	アマツバメ目	<b>APODIFORMES</b>
○	アマツバメ科	Apodidae
50	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>
51	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>
52	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>

◎	チドリ目	<b>CHARADRIIFORMES</b>
○	チドリ科	Charadriidae
53	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>
R 54	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>
R 55	ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>
56	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>
R 57	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>
58	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>
R 59	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>
60	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>
○	セイタカシギ科	Recurvirostidae
R 61	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>
○	シギ科	Scopacidae
62	チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>
R 63	シベリアオオハシシギ	<i>Limnodromus semipalmatus</i>
64	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>
R 65	オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>
66	チュウシャクシギ	<i>Numenius minutus</i>
R 67	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>
68	コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>
69	アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>
70	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>
R 71	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>
72	キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>
73	ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>
74	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>
75	キヨウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>
76	オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>
R 77	コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>
78	ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>
79	トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>
R 80	ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>
R 81	ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>
R 82	サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>
R 83	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>
R 84	キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>
85	エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>
○	タマシギ科	Rostratulidae
R 86	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>
○	ツバメチドリ科	Glareolidae
R 87	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>
○	カモメ科	Laridae
88	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>
89	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>
90	カモメ	<i>Larus canus</i>
91	セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>
92	アジサシ	<i>Sterna hirundinosa</i>
○	ウミスズメ科	Alcidae
R 93	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>
○	タカ目	<b>ACCIPITRIFORMES</b>
○	ミサゴ科	Pandionidae
R 94	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>
○	タカ科	Accipitridae
R 95	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>
96	トビ	<i>Milvus migrans</i>
R 97	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>
R 98	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>
99	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>
R 100	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>
R 101	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>
R 102	サシバ	<i>Butastur indicus</i>
103	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>
○	フクロウ目	<b>STRIGIFORMES</b>
○	フクロウ科	Strigidae
R 104	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>
105	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>
R 106	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>
○	ブッポウソウ目	<b>CORACIIFORMES</b>
○	カワセミ科	Alcedinidae
107	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>
108	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>
○	キツツキ目	<b>PICIFORMES</b>
○	キツツキ科	Picidae
109	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>

110	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	R	148	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	
111	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		149	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	
◎	ハヤブサ目	<b>FALCONIFORMES</b>		150	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	
○	ハヤブサ科	<i>Falconidae</i>	R	151	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	
112	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>		152	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	
113	コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	R	153	コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	
114	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>		154	ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	
R	115	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	155	コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	
◎	スズメ目	<b>PASSERIFORMES</b>	R	156	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	
○	サンショウウクイ科	<i>Campephagidae</i>		157	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	
R	116	サンショウウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	158	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	
○	カササギヒタキ科	<i>Monarchidae</i>		159	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	
117	サンコウチヨウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	R	160	エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	
○	モズ科	<i>Laniidae</i>		161	サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	
118	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	R	162	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	
○	カラス科	<i>Corvidae</i>		163	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	
119	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	R	164	ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>	
120	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>		165	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	
○	シジュウカラ科	<i>Paridae</i>	○	スズメ科	<i>Passeridae</i>		
121	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	166	ニュウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>		
122	ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	167	スズメ	<i>Passer montanus</i>		
123	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	セキレイ科	<i>Motacillidae</i>		
○	ヒバリ科	<i>Alaudidae</i>	168	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		
124	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	169	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>		
○	ツバメ科	<i>Hirundinidae</i>	170	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		
125	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	171	ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		
R	126	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	172	タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	
127	イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	アトリ科	<i>Fringillidae</i>		
○	ヒヨドリ科	<i>Pycnonotidae</i>	173	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		
128	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	174	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>		
○	ウグイス科	<i>Sylviidae</i>	R	175	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	
129	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	176	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		
130	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	177	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		
○	エナガ科	<i>Aegithalidae</i>	178	イカル	<i>Eophona personata</i>		
131	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	ホオジロ科	<i>Emberizidae</i>		
○	ムシクイ科	<i>Phylloscopidae</i>	179	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>		
R	132	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	180	ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	
R	133	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	181	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	
R	134	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealooides</i>	182	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	
	135	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	R	183	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>
○	メジロ科	<i>Zosteropidae</i>	R	184	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	
136	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>		185	オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	
○	ヨシキリ科	<i>Acrocephalidae</i>	(外来種・野生化種)				
R	137	オオセッカ	<i>Locustella pryeri</i>	1	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	
138	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	2	アイガモ(マガモ)	<i>Anas platyrhynchos</i>		
139	コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	3	ドバト(カワラバト)	<i>Columba livia</i>		
○	セッカ科	<i>Cisticolidae</i>	R	4	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	
140	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>		5	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	
○	レンジャク科	<i>Bombycillidae</i>	野生哺乳類				
141	ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	1	ジネズミ [トガリネズミ目トガリネズミ科]			
○	キバシリ科	<i>Certhiidae</i>	2	モグラ [モグラ目(食虫目)モグラ科]			
R	142	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	3	小型コウモリ [コウモリ目(翼手目)ヒナコウモリ科] : 生息環境からアブラコウモリと思われる。		
○	ミソサザイ科	<i>Troglodytidae</i>	4	ハクビシン [ネコ目(食肉目)ジャコウネコ科]			
143	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	5	ホンドキツネ [ネコ目(食肉目)イヌ科]			
○	ムクドリ科	<i>Sturnidae</i>	6	タヌキ [ネコ目(食肉目)イヌ科]			
144	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	7	イタチ [ネコ目(食肉目)イタチ科]			
145	コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	8	ホンドテン [ネコ目(食肉目)イタチ科]			
146	ホシムクドリ	<i>Sturnus vulgaris</i>	9	アナグマ [ネコ目(食肉目)イタチ科]			
○	カワガラス科	<i>Cinclidae</i>	10	イノシシ [ウシ目(クジラ偶蹄目)イノシシ科]			
147	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>	11	ニホンシカ [ウシ目(クジラ偶蹄目)シカ科]			
○	ヒタキ科	<i>Muscicapidae</i>	12	イルカ類 [クジラ偶蹄目マイルカ科] ゴンドウクジラ類との推定			
			13	ニホンノウサギ [ウサギ目ウサギ科]			
			14	リス類 [ネズミ目(ゲッ歯目)リス科]			
			15	ムササビ [ネズミ目(ゲッ歯目)リス科]			
			16	ハツカネズミ [ネズミ目(ゲッ歯目)ネズミ科]			

## Status of Wild Birds in Komatsushima City

TOUJOU Hidenori\*, OKADA Takako, KAGUSA Makoto, SYOUNO Takashi, NISHIKAWA Kiyoshi, MAMIYA Chizuko, MITSUI Masao, MIYAMOTO Isamu, YAMASITA Takumi and YOSHIMI Mikiko

\* 24-77, Sangenyacho-soto, Tokushima 770-8025, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.64 (2023), pp.23-34.